

オピニオン



と日本海側を結ぶ路線。国鉄の民営化時、赤字路線にもかかわらず廃線になりませんでした。昨今の車社会は通勤はもちろん通学も親が送迎する時代で、乗車率は下がる一方です。

で田舎の原風景をみることもできます。こつとした素晴らしい景観と、芭蕉や義経伝説などの歴史の価値と物語性を、観光資源として活用して地域活性化を図るため一昨年、

内町の「出羽三山」や酒田市の「北前船」につながっている線路。旅人には大変魅力のある鉄路なのです。沿線の魅力を発信して、陸羽西線を盛り上げていきたいと思っています。



を保護して身をかがめるしありません。私も山歩きをしていて3回クマに遭遇しましたが、いずれも逃げ去っていったのでラッキーでした。とにかくクマに襲われないため

障害者工賃向上をめざす

提言

県内における障がい福祉サービス事業所のうち、通常の事業所での就労が難しく、雇用契約に基づく就労が困難な障害者を対象にした就労継続支援B型事業所の利用者に支給されている工賃支給額は、おとこの全国平均で1万5033円でした。一方、県内平均額は1万1598円と全国では大阪府に次いで下から2番目の低さとなりました。各事業所は利用者と共にさまざまな工夫を凝らした就労形態で事業を展開していますが、なかなか思うような収益に結び付かないのが現状で



代表 台道場 屋敷 代表 田中 淳 藤 淳 斎 藤 淳

す。障害者の豊かな暮らしを支えるためにも、工賃の引き上げは必須の課題です。そこで何とか工賃の向上を図るために、山形市内の全就労系サービス事業所が結束し、「YAMAGATAまん福マップ」を作成しました。

マップ作りのために製作委員会を立ち上げ、「県障がいのある人もない人も共生社会推進事業」の助成を受けました。マップは各事業所の得意分野を細分化。福祉グルメを広める「ぐるめ編」、作り手と地域をつなぐ「ものづくり編」、雇用の創出を図る「ひとづくり編」の3種のリーフレットに分類しました。事業所ごとのイチ押し商品や購入場所、提供できるサービスを写真やマークを使って分かりやすく紹介しています。現在、インターネット上でも閲覧可能になっています。

マップの設置場所も機能や用途に応じて分類し、公的機関や民間施設に配布して活用してもらっています。また地域に情報を発信するばかりではなく、どの事業所にどんな仕事を委託できるのかなどを詳しく掲載し、より多くの人に案内、提案ができるようにはしました。特に「ひとづくり編」では、企業経営者に活

用していただき、受託作業や雇用創出につなげていくことが狙いです。今後はマップを新たな事業展開を図るための起爆剤として活用していきたいです。「ぐるめ編」では、加盟店同士がお互いの商品を持ち寄って「お中元・お歳暮セット」といった贈答品を販売したり、買い物が不便な地域に巡回販売したりすることも可能になると思います。県産食材や無添加、無農薬にこだわった事業所も多く、安心安全な食材を求める子育て世代や一人暮らしの人などそれぞれのニーズやターゲットを絞った販売も可能になります。「ものづくり編」では大量生産にはない、手作りこだわりのある自主製品を、企業で日々挑戦し続けていきたいのノベルティーの粗品や販促

全国で2番目の低さ ■ 事業所が連携、マップ作成